

雪害対策

冬期間における空き家の管理について

- 1 空き家の状態がどうなっているのかを定期的に確認しましょう。
- 2 所有者などが自分で建物を確認できない場合は、親類や近所の人などに依頼し、空き家の状態を把握するように努めましょう。
- 3 建物が損傷している場合は、部材が飛散しないように処置しましょう。
- 4 周囲の建物や道路に大きな雪庇(まぶ)の塊が落下しないよう、小さいうちに落として、除雪しましょう。
- 5 屋根の雪が大量になるまで放置せず、適切な時期に雪下ろししましょう。

雪下ろし作業について

毎年、雪下ろし作業中の事故が多く発生しています。事故の傾向は、高齢者による作業や一人で作業をしているときに事故が多く見られます。こうした事故を防ぐために、次の点に注意して作業を行ってください。



- 1 強風や大雪など悪天候時の作業は控えましょう。
- 2 暖かい日は屋根が滑りやすく危険です。午後の作業は特に注意しましょう。
- 3 保護帽(ヘルメットなど)を正しく着用しましょう。
- 4 命綱を取り付けましょう。
- 5 滑らない靴、動きやすい服装で行いましょう。
- 6 携帯電話など連絡手段を確保し、作業しましょう。
- 7 作業前の準備運動、十分な休息や水分補給を行い、体調が悪いときは無理をしない。
- 8 はしごが倒れないよう、はしごの足元はしっかりと固定し、除雪道具は持って登らずに、ロープで引き上げるなど安全な方法で行いましょう。
- 9 作業中は軒下を歩かない。
- 10 できるだけ二人以上で作業をし、声を掛け合ってお互いの見守りを!! 一人で作業をする場合は、家族や隣近所に声を掛けましょう。
- 11 隣近所と建物が近い場合は、トラブルなどを防ぐため、作業前後にひと声掛けて行いましょう。
- 12 大量の雪が隣接家屋や道路に落ちると危険です。早めに雪を下ろしましょう。

地震対策 地震発生!そんなときどうする

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保 (手近な座布団などで頭を保護)



揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火 (ガスの元栓、コンセント)
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認 (特に乳幼児や病人、高齢者など災害弱者の安全を確認する。)
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等



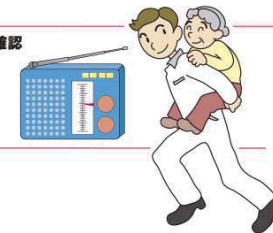
みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- 隣近所に声をかけよう ● 災害弱者の安全確保 ● 隣近所で助け合う ● 行方不明者はいないか ● ケガ人はいないか

- 出火防止 初期消火 ● 消火器を使う ● バケツリレー 風呂の水はため置きしておく ● 余震に注意
- 漏電・ガス漏れに注意 電気のパレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める

ラジオなどで正しい情報を

- 大声で知らせる ● 救出・救護を ● 防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように ● 避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する



協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食料は蓄えているものでまかなう 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集 ● 無理はやめよう
- 助け合いの心が大切 ● 壊れた家に入らない

屋内にいた場合

デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。



劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。あわすずに冷静な行動をとる。



集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

海岸付近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。

